昭和50年度卒園　**村　山　文　代**（旧姓　井上）

ふたば園ときくと、バスで通園したことが思い出されます。私は、ふたば園から少し距離のあるところに住んでいました。そのため、ふたば園に通う近所の友達といっしょにバスで通園していたのです。母親と一緒に近所の停留所まで行き、みんなと合流。そこからバスに乗って園に近い停留所で降り、徒歩で園に向かいます。バスに乗っているのはたった3区間とはいえ、母親はとても心配だったと思います。私たちも緊張しながらの通園だったようです。ところが、次第になれてくると、全くおかまいなしで、「バスきたー、バスきたー・・・」なんて大声を張り上げ、さっさとバスに乗り込み夢のような3区間を過ごしていました。カバンについている定期が、なんだかちょっぴり自慢だったことを今でも覚えています。今にして思えば、先生方の気遣いや、親の心配はいかなるものだったのかと頭の下がる思いでいっぱいです。だからこそ、2年間安心して、たのしくふたば園に通うことが出来たんだと思います。

私は今、長年の夢であった教員になり、2児の母親にもなりました。担任になった子どもたちのなかに「ふたば園」卒園の子どもたちも何人かいて、お互いの思い出話に花の咲くこともあります。時代は違っても先生方の話をしていると、年令差を感じないのが不思議なくらいです。きっと、先生方がいつも同じ姿勢で私たちを見守っていてくださったからでしょう。そのような人とのつながりを感じながら、先生方から伝えていただいた心のつながりを、自分の子どもを含めた子供たちにも伝えていけたらなと思っています。

「ふたば園の思い出」

昭和55年度卒園　**大　岩　尚　史**

私が、「ふたば園」に通ったのは、もう24年ほど前になります。みんなと勉強したり、遊んだり、すごく毎日が楽しくて、ふたば園に行くのが大好きでした。遠足では、津市の機関車のある公園にいきました。高校生の時は毎日通っていましたが、あの頃はものすごく遠いところへ行った気がしました。中でも「夏の夕べを楽しむ会」では、初めて自分の家以外でのおとまりということで、少しの不安もあったかと思いますが、昼間は隣の小学校のプールで遊び、夜は花火を楽しみ、興奮の連続でした。

また成長してゆく上で、人としてとても大切なことをたくさん教わりました。私は沢先生に担任して頂いたのですが先生のことが大好きでなんとか先生に気に入られようと、子供ながらに一生懸命考えてました。隣の家の畑からネギを取って来て先生にあげたりもしました。今思うとそれはいけない事であり、またそのような事をしたのがすごく滑稽です。

たまには手紙も書きました。一生懸命文面を考え、先生に渡し、後日返ってくる先生の返事を読むのが大好きでした。そんな優しい先生も時には厳しく叱ってくれました。当時給食の時、すごく好き嫌いのあった私は、落としたフリをして嫌いな物を床に捨てていました。するといつの間にか、下の床に山盛りになってて、すごくおこられて、反省しました。あの時の先生は怖かったです。友達とケンカもしました。先生に「これからは仲良く出来る？」と聞かれ、認めるのがイヤで「それは分からない」と反抗し、先生を困らせもしました。

他にもたくさんねいろいろな思い出がよみがえってきます。これらの色々な楽しい行事や、友達と遊んだ事、ケンカした事、優しい先生との思い出、先生に叱られた事などの全てが、私の「ふたば園」そのものであり、それはこれからも変わらず、私の心の中、また、先生やみんなの心の中にいつまでも色あせる事なくあり続けると思います。

昭和59年度卒園　**小　出　剛　義**

僕の従姉（従兄）２人と兄は、いずれもふたば園の卒園生です。ですから、僕も兄の在園中には亀高の文化祭について行ったり、いろんな行事を見にいったりして、当然自分もふたは園に通うものだと考えていました。入園を決定するのはクジです。母に抱えられて一枚引くと、封を開けるまではもうドキドキでした。合格の印を見た時はとても嬉しかったことを覚えています。

ふたば園の行事で一番楽しかったことは夏の夕べを楽しむ会でした。プールで遊び、お昼寝をして、夜は待ちに待った花火大会。親子一緒になってキャーキャー騒いだことを夏の夜花火をするたび思い出します。

お誕生日会も楽しみの一つでした。誕生月に写真を併せて先生が一人一人向けて書いてくれたメッセージカードは今も大切に残してあります。他にもマラソン大会で５位までに入り、手作りのメダルを掛けてもらったこと、高校の実習の先生たちが遊んでくれたことなど、思い出を語れば尽きることはありません。出席帳に先生が貼ってくれる金色の皆勤シールも楽しみで僕は毎日ワクワクしながら通ったものです。

担任の牛尾先生は、普段は優しい先生でしたが一度消防署の人が見えて話をしてくれた

時、桃組さんが積極的に質問しているのに年長の僕たちは誰も質問をせず、叱られた事があります。疑問があってもみんなの前で発言する事が恥ずかしかったのでしょう。その教えがあって僕はその後分からない事があればどんどん質問していく性格に変わったと思います。

小学校を卒業した時、ぼくはふたば園に報告に行きました。先生たちは暖かく向えて僕たちの成長を喜んでくださいました。

幼少の思い出を育んだ場所がなくなってしまうのは本当にさみしい事です。でもふたば園は僕の心に確かに軌跡を残しています。今改めてふたば園に感謝したいと思います。
ありがとうございました。

ふたば園の思い出

昭和59年度卒園　**片　柴　富美子**

ふたば園を卒園して長い月日が経ちました。今年度をもって閉園と聞き、とてもさみしく思っています。今、振り返ってみるとふたば園ではたくさんの経験をさせてもらいました。

運動会では、みんなで鼓笛をしました。楽器を演奏しながら園庭を歩いたことを覚えています。みんなで劇をして、きれいな衣装を着せてもらいました。マラソン大会では、すてきなメダルを首にかけてもらいました。高校生のお姉さんが来て、一緒に遊んでもらい、とても楽しかったことを覚えています。

私は今、幼稚園で働いています。私自身いろいろなことが経験できよかったです。子どもたちにも「いろいろな経験ができてよかったなぁ」と思ってもらえるようにがんばりたいです。

ふたば園で経験したことや、楽しかった思い出はいつまでも大切にしていきたいと思っています。

ふたば園を卒園して

昭和61年度卒園　山　崎　飛　鳥

徒競争で一番が取れたのは、ふたば幼稚園のおそらく最初の運動会の時だけでした。卒園し、隣の東小学校へ通いだしてだいぶたった頃、ふとふたば園へ遊びによった時、広い運動場と思っていた園庭の以外にこじんまりしたありようや、職員室のドアの大きさが普通であった事にとまどったのを覚えています。冬には、金網で囲った丸い石油ストーブが職員室に入り、それが何とも特別に暖かそうに見え、職員室のくもったドアを見上げていたような記憶もあります。当時は、そのストーブと同じか少し高いくらいの背丈だったのでしょうから、無理もないかもしれません。

大学生になって地元を離れ、自分の活動も社会的責任を伴うようになると、入り乱れる情報に翻弄され、悪戦苦闘してばかりです。その中で、現代美術という世界を知り、自分が「おもしろい／すきだなあ」と思えることを、追求し、「すきだ」と相手に伝えたり、そのすてきさを語ることが出来るということのすばらしさを実感しました。こどもの頃には、おそらくそれしかしていなかったのでしょうが、今もう一度、その大切さを大切にできる自分でいたいと思っています。知りたいことが多すぎて、あるいは人の意見に惑わされて、単純に見えていたことを、気が付くと見失っていたということが起こりやすいとかんじているからかもしれません。でも、そんな時私がいつも頼りにする最大の基準は、こども達に自分が自信を持って話せることなら、間違いないということです。

勉強不足の私にとって、学問や政治、経済といった世界の中には、専門用語が飛び交う高度なゲームをしているようにしか見えない立場、分野もあります。そこで一人前に話ができるというのも、憧れの１つですが、これから社会人になろうという今の私にとっては、まずその前に１人の大人として、こども達に「かっこいい」といってもらえるような、大切な事をシンプルに分かりやすく話すことのできる１社会人でありたいと思っています。

ふたば園が閉園してしまうと聞き、残念でなりませんが、ふたば園の卒園生として、いつも胸をはっていられる私たちを送り出していただいた先生方、関係者の皆様には本当に感謝しています。ありがとうございました。

双葉幼稚園での思い出

昭和62年度卒園　若　菜　祐　一

双葉幼稚園では、数々の楽しい思い出がありました。今、アルバムを開いてみると、忘れていた行事、思い出がたくさん甦ってき、懐かしく思えます。写真に写る僕は、どの写真をみても笑顔です。それだけ双葉幼稚園での日々は楽しかったというのを改めて思い出させてくれます。それに僕だけでなく、写真に写る友達も皆笑顔です。

でも一部分だけ僕が笑顔でない写真がありました。それは、学芸会で、僕が重役を任された時の写真でした。その時の演劇は、『金のがちょうのオペレッタ』でした。僕はその劇の王様の役を任されていました。この時のことは今でも鮮明に思い出されます。僕たち、黄組は牛尾先生の元で一生懸命練習しました。当時これだけがんばって一つのことに一生懸命になったことはめったになかったのではないでしょうか。本番当日、僕はかなり緊張したことを覚えています。写真越しにもそれは伝わってきます。しかし、演芸中はそれほど緊張はしてなかった様に思えたのですが、やはり写真をみると、顔がこわばっていました。芸が終わったあとは、思わず笑みがこぼれたというよりも、あふれでたことを覚えています。あの時の思いは、あの時でしか味わえないものの様に、今当時を振り返って思います。

今回は、双葉幼稚園当時を振り返らせてもらう良い機会を与えていただき、最後になりますが感謝しています。あの頃の良き日々の思い出と、その舞台となった双葉幼稚園は僕たち、卒園生の胸の奥で生き続けていくことでしょう。また、あの頃のあの日々があったことで今の僕達があることも、間違いではないと思っています。双葉園がなくなることは、本当に残念なことです。皆さんいつかどこかで会いましょう。